

令和8年度 江南小学校経営方針

1 はじめに

新潟市の教育が目指す人間像

「しなやかに 世界と未来を創る人」

「しなやか」

「柔軟性、弾力性」「粘り強さ」「たくましさ」「適応力」

「世界」

グローバルな世界や自分が関わる身近な地域社会

【新潟市の教育が目指す人間像】

既成概念にとらわれず、主体性と挑戦する気概をもち、新たな価値を創造しながら、しなやかに「世界」や「未来」を作り出していく新潟市民であってほしいという願い

「令和の日本型教育」では、子どものパートにおいて、多様化が進む子どもたちのすべてに基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させるためには、個々の子どもに応じた学習活動を提供することで、主体的に学習を最適化する「学習の個別化」の重要性が述べられている。これら、「個に応じた指導」（「指導の個別化」と「学習の個性化」）、「個別最適化した学び」が重要であることが述べられている。

また、学校ならではの協働的な学び合いや地域を始めたような他者と協働して主体的に実社会の課題を解決しようとする探求的な学び、体験活動を通じた「協働的な学び」が重要であることも述べている。

これらを通して、一人一人の児童が、将来、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の作り手となることができるようにする力を培うことが求められている。

OECDのこれからの時代の教育を考えるプロジェクトでは、子ども一人一人の幸せ、ウェルビーイング(WELL-being)の実現のためには子どもが「自ら主体的に目標を設定し、見直しをもって、行動し、振り返る」プロセスが重要であり、その積み重ねを通して、「責任を引き受ける、新たな価値を創造する、対立や緊張や葛藤の折り合いをつける」といった資質・能力が、これから求められる資質・能力として育つとされている。

2 江南小学校が目指す方向

教育目標で扱う「かがやき」とは『「喜び」と「楽しさ」を感得し、安心を基盤として、たくましく過ごしている状態』とする。この状態を常態化するための基盤は「安心感」である。子ども自身が安全で安心であることを実感している環境で子どもは思いや考えを表現でき、失敗を恐れることなく探究することができる。こうした子どもの姿を実現するには子どもの小さな変化に気づき、子どもの姿を語ることでできる児童理解について学び続ける教師のいる環境が重要である。

新潟市の教育が目指す人間像「しなやかに 世界と未来を創る人」に込められた願いは、江南小学校では、安心感を基盤として目指す資質・能力「挑む」「認める」「考える」の育成を図ることで力強くアプローチする。

江南小学校の教職員は、一人ひとりが自分の持ち場で役割を果たしながら、認め合い、支え合い、高め合う資質と能力に富んだ職員集団である。本年度はさらに、職員一人一人の柔軟な発想と行動力を結集し、挑戦し、夢をかなえ「WELL-being」を実現する。

3 教育目標と重点目標

教育目標

かがやけ 太陽の子 「やさしく かしこく たくましく」

令和8年度新潟市立江南小学校「今をかがやけ未来もかがやけ」ビジョンに基づき、教育目標の実現を目指す。

重点目標

安心

多様性を認め合いすべての児童が居心地の良い学校環境

挑む

解決したい課題を見付け、粘り強く取り組む子ども

認める

相手の思いを聞いたり、伝えたりして、互いを認め合う子ども

考える

対象や方法を選択・調整して、情報を整理しながら、新たな考えを見出す子ども

○ 学校評価は効果的に行われなければならない。そのためには常に子どもの声・姿を見取りに頼るのではなく、客観的な数値によってチェックしなければならない。教職員も子どもたちも日頃から目指す具体像を意識できる環境を作ることが大切である。そこで、各部アンケート12項目について、Google フォーム等を使い、児童の姿を数値化し、各部の取組の進捗状況から取組の実効性を分析する。

- ① 4月 : 学校評価各部のアンケート項目を、始業式で説明する → 取組実行
子どもたちと令和8年度の目指す姿を共有する
- ② 5月末 : 運動会後の子どもたちの状況を学校評価各部のアンケート項目で、進捗状況を把握する(3年生以上)。 → 実態把握と改善
- ③ 7月 : 7月までの学校評価で前期の子どもたちの状況を学校評価各部のアンケート項目で、進捗状況を把握する。 → 実態把握と改善
- ④ 10月中 : 前期の子どもたちの状況を学校評価各部のアンケート項目で、進捗状況を把握する(3年生以上)。 → 実態把握と改善
- ⑤ 12月 : の学校生活アンケート・学校評価で前期の子どもたちの状況を学校評価各部のアンケート項目で、進捗状況を把握する。 → 実態把握と改善

児童アンケート基本項目

- ① 【安心】 学校生活は楽しい
- ② まわりの人に優しい言葉遣いをしている
- ③ 自分はまわりの人に優しくしている
- ④ まわりの人は自分に優しくしてくれる
- ⑤ 【挑む】 普段の授業で、自分から課題を見付け、取り組んでいる
- ⑥ 授業の後、「もっと～したい」「もっと～を知りたい」と思う
- ⑦ 【認める】 自分には良いところがある
- ⑧ まわりの人には良いところがある
- ④ 自分はまわりの人に優しくしている
- ⑧ まわりの人は自分に優しくしてくれる
- ⑨ 【考える】 授業で、学習する内容や学習方法を選べることはうれしい。
- ⑩ 学んだことや考えの変化を振り返りに書く
- ⑪ 授業で、話し合ったことで自分の考えが良くなったり、広がったりしている。
- ⑫ 新聞を読むことは生活の役に立っている

4 実現のために大切にしたいこと

- (1) 同僚性を大切に、江南小の宝である子どもと教職員の安心を高める。また、「挑む」「認める」「考える」の視点をから、子ども・教職員自身が高まるための挑戦をすること。

① 子どもの安心のために人的環境を整える

- 誰からも攻撃されない
- 誰からも個々の良さや頑張りを正しく評価される
- 誰からも認められ誰をも認めようとする
- 考えや願いを尊重される・活かされる

<教師が改善を仕掛ける人的環境整備>
「安心部」「挑む部」「認める部」「考える部」の力強い挑戦を。

<教師が見せる人的環境・共通の土台>

- ◇ 教職員の立ち居振る舞い(市民感覚)
- ◇ 教職員の学ぶ姿勢
- ◇ 教職員の言葉遣い
- ◇ 教職員の傾聴の姿
- ◇ 社会のルール・マナーの理解

- (2) 学級 ○人間関係づくり 子どもと子ども 子どもと教職員 教職員と保護者

→ 発信力・傾聴力・対応力の向上

○学級だより(月1~2枚が目安)

※ 授業や活動で見られた子どもの姿を目指す資質・能力の観点から意味付け・価値付け、認める内容を盛り込む

- 高まりや変容の兆しや芽生え
- 望ましい姿に至る過程
- コラムで人柄を見せること
- 他者を思う言動の価値付け
- 子どもの素敵な言葉と意味付け など

○学級づくり 「出会うでの担任方針」「頑張る目指すこと」「絶対に許さないこと」

- (3) 授業 ◎4年生以上での教科担任制<例:国語と算数で、社会と理科で、図工と音楽で>

○「課題の提示」と「問い」の区別、「まとめ」、ノートに書くこと、定期的な振り返り

◎教材研究の協働的な取組

- (4) 規律 ○学習や生活において継続して取り組むこと、大切にしながら高めていくこと

- (5) 挨拶・清掃

○指導の徹底と率先垂範・師弟同行(目的と意味・価値・願いの全職員での共有)

- (6) 保護者・地域との連携、校種間連携(小中・幼保こ小:架け橋プログラム)

○連絡帳ではなく電話、電話より面談での誠実な連絡・伝達・相談、お便り

◎スタートカリキュラムの充実・幼保こ小との教育観・保育観・資質と能力を育む取組の共有化と授業の質の変革

- (7) いじめの未然防止の充実と対応の徹底

◎生活指導は初期対応(速報と即共有、正確かつ迅速な事実確認を組織的対応)

- (8) 適切な目標を持たせ、その振り返りを大切にしていこう取組

○学習、運動・健康(生活習慣、運動のめあて、給食等)

- (9) 安心・安全な環境づくりと適切で迅速な対応

◎安全点検、首から上のけがの対応(報告と保護者対応)

- (10) 働き方改革

○ライフワークバランス、お互い様

- (11) 発信

◎ブログの充実(配信メールでも宣伝を)

◎学校だよりの配付効果の向上 4部会主任による取組紹介 成長を伝える写真

【職員の安心のために・・・徹底事項】

1 電話対応は7:45～16:45

以降留守番電話設定へ(教頭・教務主任)。16:45からは学校職員が保護者に連絡する時間。

2 保護者の電話については、直接教職員には取りつながない(学校からの連絡への折り返しは○)。

「確認いたします。御用向きをお伺いしてもよろしいでしょうか」と情報を可能な範囲で引き出す。その上で、「少々お待ちください」とお待ちいただき、「教務室を不在にしておりますので、すぐ折り返しのお電話をいたしますので、5～10分程度電話をお切りになってお待ちください」と伝え、対応の準備、心の準備をして折り返しをする。

3 朝の電話はできるだけ級外が対応する。

朝、学級担任はせわしない。落ち着いて教室で子どもを迎えるために、級外は可能な限り電話等対応する。

4 採用2年目までの教職員は最初に電話を取らない。

5 連絡帳は朝のうちに確認し、生活指導上の内容は即時管理職に報告する(対応ミーティング)。

担任、教務主任、教頭は、内容確認のあと、お話の内容を確認したこと、詳細な事実関係を把握するための聞き取り(複数人で行う)を行うこと、放課後に改めて報告の連絡を差し上げることなどを朝のうちに、保護者に連絡をし、対応の見通しを知らせる。

6 児童の問題は必ず複数人で対応する。

7 教室を開けるときには必ず主任または、隣の学級担任に声を掛ける。

8 アレルギーチェックの徹底(マニュアルを遵守)